

発見!

熊野町の「工工」ところ。

シリーズ
第16回

全国各地にある名所や名物、もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。
今回は「熊野第四小学校の校歌」にまつわるレポートです。

「みどりみどり」～vol.6 熊野第四小学校校歌～

熊野中学校から始まった校歌シリーズも、今回はいよいよ最終章。どの学校も校歌作成の秘められたエピソードなど探っていくと、そこへ込められた作成当時の先生や保護者、地域の方々の学校へのあふれるような熱い思いが伺われた。さてさて、今回はどのようなエピソードが隠されているのだろうか？エ工とこ発見！

一昨年度、創立30周年を迎えた熊野第四小学校は、町内4つの小学校で一番最後に創立された学校である。校長室をお訪ねすると、佃照樹校長（56歳）は、ご用意くださった校歌にまつわるたくさん資料を、テーブルに広げながらお話くださる。



初代 福岡孝義校長

今ではその人となりや、作成当時の思い、エピソードなどをお伺いすることができないのが残念である。すると「福岡校長は当時ボクらの憧れの校長だったのですよ」と佃校長。なるほど、校長室へ飾ってお写真を拝見すると、とてもダンディーで芸術家の風貌さえ感じられる。聞けば、先日の運動会で

児童達がゲンキよく歌っていたあの「運動会の歌」も作られたという。

「そうそう、福岡校長の校歌作成当時の思いと願いは、ココに示されていますよ」と、資料の中から1冊の本を手にとりて見せてくださった。それによれば校歌「みどりみどり」という題は・・・



歌碑「みどりみどり」

広々とした運動場、民家も目に入らぬ緑の山あい真新しい校舎が静かに、そして厳然と存在していた。昭和52年、4月の陽光の中にキラキラ輝く緑と、その中に立つ校舎を見た時の強烈な印象をもとにつけられたようである。

その曲は・・・

校歌というのは、明るい時ばかりではなく、悲しみの場合でも歌わなければならぬ。場合によっては、卒業して大人になった時に歌うこともありま

す。だから、どんな場合にもどんな年になろうとも、違和感なく歌えなくてはならない。音域も楽に歌えるようにと、そんなことで無性格みたいな曲になったんですがね」というこぼれ話が、記念誌「くまの子川」に残されていた。



校訓「ちかい」

そして、校歌の1番には己を、あるいは人間を超えるものへの謙虚さを歌い、2番では、人間としての温かさ・連帯を、そして3番では、自己の確立を歌っている。この敬・愛・自主の3つは、「ちかい」という校訓として、福岡校長自らの文字で正門前の石碑に刻まれている。

みなさんも、母校の校歌は不思議と大人になっても歌えませんか？校歌。そこには親と学校が作り上げてきたこの大切なものを、どうぞ発展させてほしいという願いがいっぱい込められています。卒業していった子ども達ひとりひとりが、それぞれの母校を誇りに思えるよう、地域に住む我々も一緒に学校を見守りたいものですね。

取材 伊藤真由美